

## 第10回

### 川西市地域福祉市民フォーラム

#### 「地域の現状と課題」

～ 住みなれた地域で安心して、  
自分らしく暮らすために ～

松澤先生：地域で安心して自分らしく暮らすことが大切です。そのために、まず考えるべきことは、「今の地域社会はどうなっているのか」「どんな様子になっているのか」ということを、どうしても分析する必要があります。そのうえで我々としてはどういう方法で、誰とどのように協力して、どのように工夫して、具体的に何をするかということを考える必要があります。地域の課題は多岐にわたる内容ですし、人それぞれに考え方の違いというものがあります。私なりの考えを申し上げるとともに出来るだけ皆さんにイメージを膨らませていっていただけるようにと思いつつお話を進めてまいります。



#### いま、なぜ「地域福祉」なのか

まず、第一に、なぜ「地域福祉」なのかということですが、実は地域福祉という考え方は昭和20年代から社会福祉協議会の設立とともに発展してきました。川西の社協が今年設立60年ということで、先程市長からもお話があったのですが、社会福祉協議会というのは今日、法律上でも地域福祉を専ら推進するという位置づけになっています。日本ではこの60年間、地域福祉という考え方が、この福祉のありようの中にひとつ道を作ったという歴史があるというのはお分かり頂けると思うんですが。

また、この平成になり20年を超えたところで地域福祉というものが再び注目、着目される今、これはどうしてなのかも改めて考える必要があるということでもあります。最近の地域での皆さんの生活あるいは周りの人々の生活の様子を見ておられるという感じるところがあるかと思えます。

#### 生活の様子から

それでは、生活の様子からということでは、価値観の多様化と関係の希薄化という言葉を使って説明をさせていただきます。まず、価値観の多様化というのはよく言われていますが、ご自身の生活や、他人の生活と自分の生活との関係を見ると、自分の生活にあまり触れてほしくないなど、いろいろなことが起こってきております。

価値観の多様化というのは決して悪いことばかりではないのですけれども、いろいろな考えの人、あるいはいろいろな感じ方をする人がたくさん地域にはいらっしゃる

て、それはあたり前なのかなということと、その結果、みんなが同じ方向を向いているというよりは、拡散的にそれぞれの人があるような考え方で生活しているわけですから、それをひとつひとつ守っていくのは大変難しいのではないかとすることがあるかと思えます。

資料の4ページを見てください。四角で囲みまして、参考資料1、参考資料2というふうに資料番号を打たしていただいています。ここで参照しますのは4ページの下箱です。この中で関係性の喪失とか希薄化というのがあると思います。これは2007年に佐藤啓子という先生がある雑誌に掲載されたものからお借りしているものですが、関係性の喪失とか希薄化というのは5つの要素があるというふうに言われています。

1つは関係の希薄化。お互いに関係を深めあったり、反応しあうことが少なくなっていないだろうか。あるいは関係の閉塞化、自分のことを語らずに周りとの関係を断つ。関係の間接化。物を媒介しての交渉や疑似体験化、あるいは関係の拡散化。全体と個との関係の機能不全と崩壊。なかなか厳しい状況だと分析しているわけです。また、最後には関係のパラサイト化。他者への依存や過度の期待による相互性の欠如。お互い様という考え方がなかなか成立しにくいような状況が生まれているというふうに指摘されています。

皆さんも日常の生活や活動のなかで、今述べました5つの点というのをちょっと考えて頂きたいと思えます。

例えば、私の場合は仕事のなかで関係の間接化、物を媒介とした交渉や疑似体験化

を感じます。どんなことが言いますと、私が担当する学生です。彼らの手ごろな情報ツールはご存じのとおりスマートフォンです。彼らと私とのコミュニケーション手段というのは、授業と学校で会った時にあいさつをしたり、「どうしてるんや、就職活動頑張っているか」というやり取りをすることが基本的なことです。大事なことだと思えますけども、彼らの一部は、そう思ってくれているところもあるけども、逆に「先生、風邪気味で休みます。」とメールです。それでですね、そこまではまだいい、連絡してくるだけましです。携帯から発信されたメールをパソコンで受け取ると、実は誰からのメールかが分からないのです。スマートフォン同士はお互いのアドレスを登録していると、画面上に相手の名前が出ますので誰かかというのがわかるのですが、パソコンで受け取ると相手が名前を書いてくれないと誰からのメールかわからない。どうすると思います？私は、登録しているメールのアドレス帳の中からそのメールを送ってきた人物を特定するわけですが、そこまでやらないと彼が彼女かも特定できない。頼むから名前入れてよと言っているのですが、彼らの日常生活では、それもお互い同士がデジタル手段でつながっていることを前提にしますので、なかなかそういつても分かってもらえない。ということがあって戸惑うことがあります。

このように、直接相手の顔を見ないでも簡単に連絡が取れる。あるいは情報が交換できると思っています。その時の相手の表情やどういう気持ちでその表現を使っているのかというのはやはり、対面していないとわからないことがたくさんあります

ね。それを省いてしまうのだから、それが原因で関係が悪くなったり、LINEですぐに返信しなかったら相手を批判したり、仲間外れにしたり。要は、直接のやり取りする中で、いろんな関係が成立していくはずなのに、その間接化が進み悩ましい事情が出てきている、それがどんどん広がっているのです。

そういう時代になっていて、お互いの関係も少し距離があるといいますか、少し進化した関係性というのか、便利なのかもしれないけれども、煩わしくないのかも知れないが、一方では残念ながら関係を希薄化しているのではないか。それが社会全体にいろんな形で現れてきているように感じています。

## 福祉課題の様相から

二つ目は資料に戻りますけれども、福祉問題の様相ということでは、一般化、多問題化、犯罪化というのを考えていく必要があります。

私は大学を卒業後、兵庫県社会福祉協議会に就職しました。この時代、あるいは学生時代に学んだ福祉の問題の中心は、経済的課題を抱えている人々の貧困の問題が中心でしたが、今はどうでしょう。

今は、高齢者の問題が中心ですね。私も来年3月に65歳になります。まだ元気なのでもうしばらくいろいろ仕事を続けたいと思っているのですが、何時、認知症になるかもしれない。

今は、経済の問題はもちろんですが、介護の課題が社会的に大問題です。福祉というものがいろんな形で課題を抱え、どんど

ん増えてきている。仕事を一生懸命やっておられる20代、30代の方々の中で、正社員で働くことがとても難しいという状況が起こっている時代。ですので、明日はわが身というのも何も不思議ではない。どんな人でも福祉サービスなどの対象者になってしまう人がすぐに生まれてしまう社会でもある。また今そういう問題を抱える人たちというのは、皆さんの地域でもご経験があると思いますけれども、様々な課題を一度に抱えておられる方が多いというふうに推察しておられないでしょうか。経済的な問題、心身の問題、家族の問題、様々な問題が複合して多問題を抱えた家族や個人が増えている。もしくは、福祉問題と犯罪が絡んでしまうケースさえ、どんどん広がっているのが今の社会の現状です。



## 福祉理念の発展

一方、私が大学で学んだころから比べると、福祉というものに関する考え方はどんどん成長と発展を遂げている。

その基本的なキーワードは、目の前の問題を何とか解決すればいいという考え方から、その人が今暮らしている暮らし方をそのまま続けていくためには、何をどのようにサポートしたり協力したらいいのか、と

いうふうに考え方を発展させているのが、今の福祉の考え方の大きな特徴です。川西市の地域福祉計画にも川西市の地域福祉の在り方というのはこういうものであると詳しく書かれているのですがその内容も、実はこの考え方に則っていると言えると思います。

## 社会制度や行政のあり方

4点目は、福祉制度や行政のあり方です。政治・経済の発展、財政負担と、多様化し

たニーズの内容がいま大きな課題となっています。2000年に介護保険制度が発足しましたが、14年経ってその制度の内容が来年から

また少し変わっていきこうとしております。それらは、今触れましたように地域で暮らす高齢者の方々の生活問題の様子や福祉問題の様相、あるいは支援の発展という内容がありますが、それぞれがどんどん変化をしてきている。それに対応、あるいはその考え方を取り入れた福祉サービスの在り方を発展させていきこうという意味で、制度やサービスが発展を目指した結果、改革というふうになっていっていると見られます。しかしその一方では、皆さんもお気づきかもしれませんが、実は財政問題というのが大変大きなポイントになっております。今回の改定では要支援1、2という比較的



軽度といわれる人たちへのサービスの在り方が、大きく変わろうとしています。この変化は、次の3年後あるいはその次の6年後の改定で、要支援1、2の方々は介護保険制度からは少し離れて頂こうということが見え隠れしている。実はサービスや制度の発展を見ていくと、その一方で高齢化が進み、対象者の方はどんどん増えていっている。費用がたくさん必要である。でも、これは保険料と税で賄っていますから、そうそう保険料を上げていくわけにもいかない。制度の安定、維持を図るためには財政

問題というのは避けて通れない。パイはなかなか大きく出来ないけれどもニーズはどんどん大きくなっていきこうとしている。実はそんな時代に我々は生活して

いるのです。

## 課題解決のキーワード

皆さま方の取り組みとその課題に移りたいと思います。最近こうした課題解決のキーワードとして主に使われているのは、自助、共助、公助という言葉ですね。福祉の進め方には、自助・共助・公助の3つのファクターがあって、これらが相互にうまく機能することで、地域に住む方々が何か課題を抱えていても、そのまま住み続けられるような体制を作っていこうという願いが込められております。この自助、共助、公

助というのは資料 P1 のような図になります。この図を解説するために、自助、共助、公助の私なりの解説をお話します。

自助というのは、ご自身や家族が自らの力で努力をして問題を解決していく力という意味だと思います。そしてまた、「つながり」とか「絆」という言葉で表現される内容も共助と自助の間くらいですけれど、そういう言い方ができると思います。

共助というのは、生活の場での見守りとか助け合いや当事者の活動、とくに今日お集まりの皆さんは、民生委員等をされている方と伺いますので、生活の場の見守りと助け合いという言葉がぴったりとあてはまると思います。今日皆さん方にとくにお考えいただきたい部分でもあります。

そして、公助というのはもちろん、公が責任をもって制度やサービスを運営するというのが基本です。最近ネットワーク化、システム化、異業種・多職種連携という考え方も大変重要だと言われています。今日この会の冒頭で、川西市見守り協力事業者ネットワーク事業の締結式が行われました。取り組みについてのフローチャートが、お手元に配布されていると思いますが、この図は従来は図の右側の民生委員さんとかコミュニティ組織、自治会、地区福祉委員会、ご近所・地域住民の皆さん、そして行政と社協などがお互い協力しながらやっていく。それから左の下に消防とか警察とがありますけれども、これらは従来からお互いが地域でお互いに協力し合ってきています。

もちろん消防、警察はプロですからそういう意味でも協力していただく。それに対して今回協力事業者となられた方々は、従

来はこうした福祉の活動とはちょっと縁が薄かった事業者の皆さんで、他市では例えばローソン等いろいろなところも関係しています。こうした動きはますます増えていくというふうに考えますと、このネットワークのシステム化というのは身近ではあるが、見守りや支援の網の目をより細かく張り巡らせるうえで大変重要です。そうするともうお分かりのように公助、自助というのはそれぞれ自分の立ち位置に基づくもの。それに対して共助というのは、皆さん方の活動次第で大きくなったり小さくなったりする可能性があるものだということです。その意味で図のように表現にしている訳です。

このような図を作っていくと、自助、共助、公助というのがもっとうまくつながりあって地域の中で生活を守っていくことになるのではないかという意味で外向きの4本の矢印のところが、皆さま方に今日お考えいただければありがたいなと思っています。

## 現代社会の さまざまな生活困難や障がい

さて、先程ご紹介しました4ページ、参考資料1というのがあります。今の社会のさまざまな生活上の困難や障がいについて、最近よく使われている言葉を列記しています。読み上げるときりがないのですが、1つは所得の格差と偏在が大きくて、その結果としての貧困や低所得、ニートやワーキングプアという問題がでてきている。ネットカフェ難民、ホームレスや引きこもり、よく新聞やマスコミ等で取り上げられてい

ます。それから少し話題が変わりまして、育児不安、児童虐待、シングルペアレントなど、それぞれに大きな課題があります。

私は高齢者福祉が専門ですので老老介護や高齢者虐待という問題も課題として大きいと考えています。介護の中では認知症の問題も大きな課題だと思います。認知症の方を地域でどう見守っていくかというのは大変難しい課題でもあります。また、事故や傷病による障がい、あるいはさまざまな社会的不安、孤立と孤独、心の病、家庭内暴力、外国籍住民に対する排斥、災害被災、あるいは犯罪被害、環境の悪化ということがさまざまに地域の中で、今の時代の様相の一面として現れています。

## 地域福祉活動・見守り活動の 推進に必要なもの

2ページに戻っていただいて、2番の地域福祉活動、見守り活動推進に必要なものは何だろうかを考えます。これは、私が社会福祉協議会に就職し新人のころにはよくわからなかったのですが、以来ずっと考え続けている事柄で、なかなか結論、「これや」というのが見つからない。

そこで、地域福祉活動や見守り活動の実践を4つのキーワード「人」と「場所」と「お金」と「情報」で考え、この4つがバランスよく地域の中で結合していく必要があると考えてみました。

例えば、そこで生活している人、この人たちが主人公だという考え方が地域福祉、見守り活動の基本となります。その上で協力してくださる皆さん、地域の皆さん、課題によって立場や、役割が変化する人たち、

専門職、専門家、自治体の職員、警察や消防の方の関わりが必要になります。ですので、先程のネットワークの重要性と重なってきます。

後でなぜかということを知りたいと思います。

## 「場」

次に場所の問題ですが、「場」というのは、スペース、公民館とか、センターとかいうものだったりします。あるいは拠点という言葉ができるかもしれません。公民館というのはスペースでありますけれど、拠点がどうかというのはそこにどのような人が集まっているか、どのような機材がそろっているかによって少し見方が変わります。

サロン、これは子育てや、高齢者の皆さんの集まる場です。また専門機関、子どもさんの問題でいうと保育園、幼稚園、小学校などがこれにあたりますし、高齢者の支援でいうと地域包括支援センター、それからケアマネジャーがいる事務所、あるいはデイサービスセンター、介護老人福祉施設関係等々となります。すなわち人が動くための条件や要素、協力をしてくれる人たちを含めて集まったり、連絡しあったりというのは「場」の問題に含まれているとお考え頂けたらということになります。

## 「金」

それからお金というのは、資金と労力につきます。この資金は行政が補助する場合、社協が補助する場合、支援者自身が出費される場合、あるいは当事者が支出される場

合、いろんな資金の作り方、あるいは使い方というのがあると思います。また、労力も同様と考えています。

## 「情報」

そして、とくに皆さんにお考えいただきたいのは情報です。この情報というのは皆さん方、民生委員や福祉委員さんは様々な情報をお持ちです。民生委員さんが要援護者台帳という形で担当地区にどういう方がお住まいになっていて、中でも少し目配り、気配りする必要がある方々の情報をお持ちです。福祉委員という立場で申し上げますと、守秘義務の課題もありますのでそこまでの情報開示がされていないなどということもあるかと思えます。

例えば、民生委員さんの要援護者台帳というのは、確かに開示することはまかりならんと行政の方からお話があるというふうに聞いています。それは当然です。しかしながら、そこにリストアップされている方々の問題は、実は地域の皆さま方が今後解決していかなくてはならない課題の対象となる皆さんではないかと考えられます。あるいは要介護状態にあって「デイサービスに通いたい」「認知症かな？」「何か行動が普段と違うが…」とされていて、なんとかしないといけないと思いつつも、躊躇してしまうというような状況があるのではないのでしょうか。

ここで情報というのをどう発信していくか、あるいはどう受信するか、あるいはどう伝達するのか、あるいはどう確認するのか。あるいは情報の加工方法、リアルタイムで情報交換できているかなどが、非常に

重要な課題であります。認知症高齢者の方の一例で申し上げますと、虐待事例の通報などの場合ですけれども、地域の中でどのように対処するのがいいだろうかということが議論になっている。一番手っ取り早いのは警察にお願いすること。警察の方もそういう事案を取り扱っている所以对処は迅速です。結果、それは親子喧嘩であるというふうに見てしまう場合も当然ある。それが警察の方がそのように認定するだけではなくて、暴力を受けていた親御さんの側から親子喧嘩なの所以说ってしまうと実際に虐待があったとしても支援について先に進むことが難しくなります。しかしなが



ら、実態は、そのお巡りさんが様子をいろいろ近隣に聞き合わせをしたり、民生委員さんと少しでもお話をしてみると、繰り返し行われているのではという結論が導かれる。そういう事情をその周囲の関係者に知っていただくことが重要だが、福祉だけでは難しい場合が少なくありません。

では次の段階として、事例の方がお二人でこれからも地域で暮らしていくとなった場合に、どのような援助が最もふさわしいかとなりますと、いろんなところからかわりを始める必要があります。三日、四日、一週間、十日、二週間というふうに時間がかかるのが現状です。

また、NHK で報道された、認知症高齢者行方不明者一人問題ですけれども、その放送がきっかけで、身元が判明したそうですが、7年間も他県の老人福祉施設に入所されていたという例がありました。もし、警察の情報システムに顔写真がきちっと写っていて、運用ルールが決まっていたら、もう少し他に方法があったかもしれない。ましてやこのケースはお名前が間違っていたと聞きまして。



このように、ここに書いた発信、受信、伝達、確認、加工、リアルタイム、タイミングというのはとても重要になってくるということです。問題が解決できなくてもできるだけ早い段階で、大きな問題に発展させない。そうしたことを考えてみましたら、「人」、「場」、「金」、「情報」の4つのこの枠を同じ大きさにしてバランスよくこれが動いていく場合には総合力として発揮されているのではないかというのがこの図の意図するところであります。

もし「人」のところ小さくて、「場」のところ大きくて、「情報」が活用されていないという状況であれば、総合力は自然と小さくならざるを得ません。この図から4つの絆が同程度であれば、総合力も大きくなるというふうに相互間関係があると考えています。

もう一つの要素はその外側の矢印は、地域活動や見守り活動など3つの要素からなっています。皆さま方が地域で行っておられる活動について、その活動は何を目指しているのかという左側の計画という考え方。そして、その計画と活動の関係がうまくいっているのかどうかという点検・評価という下からの矢印。この3つのエネルギーをチェックすると相互の関係性の中で地域福祉活動であり、見守り活動は発展していくか、それとも満足でないかということ明らかになると考えています。皆さまには、ご自身のあるいは、皆さんのグループの活動を考えるときのひとつの参考にしていただければと思います。

## 日常的に活動を進める時の課題

～計画は、できると  
“ホッ”とする～

日常の活動を進めるうえでの課題をいろいろと考えてみますと、4つのことが考えられます。一つは計画から矢印が4つの絆を表していますが、計画はできあがると担当者も必ずほっとします。私も某市では、介護保険、高齢者の計画の策定委員会の委員を務めています。

川西は地域福祉計画に、地域の方にご協力いただいて、また地区福祉計画を作っている。ここにあるように活動と計画と点検・評価というのは位置づけられている。それから点検・評価のところからの矢印ですけれども、自分たちが作った計画で自分たちがやっている活動をなかなか辛口批評は難しいですね。



私は、今はこういう立場なので自由にものを言わせていただいていますけども、社協に居るときはとてもとても難しかったです。しかし、皆さま方の地域福祉計画、皆さま方のご活動をご自身で辛口評価・点検をするということが今求められつつあるかという気がしています。

地域福祉の成果というのはすごく見えにくくて測りにくいですね。何か一つのことごうまくいったら他のこともうまくいくかという決してそうではない。

## 役割分担・事業推進は？

それから2番目は、行政、特に厚生労働省は次から次へと施策を打ち出してきています。今回の介護保険の計画では、要支援1、2の方々は従来とは違った扱いになります。その対応策の核を担っているのは、地域包括支援センターですけれども、この職員をもう少し増やさなければなりません。そして、生活支援コーディネーターという職を新たに設けて、地域での高齢者サポート体制をつくっていきこうと計画されています。それから、低所得者向けの生活支援ですね。この事業のアドバイザーを設置するという話も出てきています。というふうに今、次から次へと新しい施策、制度、サービスなどが浮上ってきているのです。

しかしながら、地域福祉の活動というのは、新規の施策や状況変化を活用しつつも、既存の事業や活動を活かすことが重要だと考えます。皆さんが日ごろの活動がどれだけ大切で大きいかというのは言うまでもないだろうと思います。

それからレジュメの3ページの頭をご覧ください

いただきますと、先程、この場で締結式が行われましたね。新聞の販売店さん等の福祉とは異業種だが、地域住民との関係性ということを見ると、その方々が意外に近い関係にあるということですね。大変有効だと思います。

また、お弁当を冷凍保存したものを宅急便で届けるサービスが拡大しています。これらは企業活動として行われるものですが、従来から社協等で給食サービスをやられているところになると、この配食サービス、そういう企業活動と皆さんの活動は意外と近いところにあるわけです。

## 共同作業・活動を重視する

それから共同作業・活動を重視するという点からは、横断的に「積極的逸脱」が必要です。相手の言語を理解する努力、相手に分かる言語を使う努力、異業種、職種間のコンビネーションを図る努力などが必要です。

先程の総合力のところに戻っていただいて矢印の下から上の点検・評価というところで、次のところにも絡むのですが、説明をしますとレジュメの5ページの参考



資料3の「見守り活動」をご覧ください。

具体的な見守り活動の中身は何かというと、安否の確認、孤立防止、緊急時対応、緊急通報後の確認や不安解消などです。

この見守り活動には、ご本人さんの健康状態、例えば体調不良や在宅ケアの様子、その他認知症状を含めた健康の問題が背景にあります。

また、そこまでいなくても身体に不安があったり、生活上必要な要素が不十分であったりすることもあります。また、経済や生活上の問題ということで困窮しておられたり、金銭や財産の管理で悩んでおられたり、その他の生活に関する問題を抱えておられたりする。

また参考資料の4になりますけれども、住宅やその環境の問題を考えると、公営住宅の3階に住んでいたけれど、階段の上り下りが非常に厳しい。あるいはゴミ出しのこと、住み替えの問題もでてくるというふうに住宅や環境の問題にも影響が出てくる。また、虐待を発見する。先程の事例で申しました、発見をしてこれはまずいなあと思いつつもそこから先に進むのはなかなか難しい。

介護保険やその他の各種サービスを利用していると緊急時に事業所、専門職に通報があり対処を求められます。しかし、地域で活動しておられるインフォーマルサービスには、そうしたルールや約束のようなものが不明確の場合も少なくありません。また、逆に苦情という話もあるわけです。

レジュメの3ページに戻っていただいて、今のような問題をみても、皆さまの活動について、自分たちがどういう活動をしているのか、どういうシステムや考え方の中で動いているのかというのを見つめていただ

くことも必要になっています。

## 多様な活動推進プログラム

皆さんの活動の特徴の1つは、活動そのものが個人（他者）に焦点をあてている点です。第2は家族や近隣との関係であるという意味で、さまざまな関係性の問題に焦点をあてた点です。そして、第3は、地域社会に焦点をあてていることです。

個人に焦点をあてた支援や活動では、個人と個人の関係性の問題もあって、どこで線を引くか？誰に連絡や協力を求めるか？どのように問題を解決していくか？ということに悩んでおられることも多いと思います。

また、関係に焦点をあてた支援である点では、それぞれの家族には長年にわたって培われてきた関係があります。プラス面もありますけれども、マイナス面も非常に長きにわたって培われてきている。そうすると、そこで皆さん方がどのようにしていくのか、入口はなんとか入って行けたけれども、実際にその問題をどうして解決していくのかと言われると、「ちょっとな…」というふうに思われることもあるのではないのでしょうか。

そして地域社会に焦点をあてた支援という点でも、地域のどういう方々と連携していくのか、自分たちがこれまでやってきたことを大事に守っていくことを考えることが必要なのか、どういう問題があるかなどを羅列しました。

高齢単身、高齢者のみの世帯あるいは親の年金に依存する単身の子のみとの同居、心身機能の減退、傷病、各種後遺症、認知

障がいなどの事例が、際立って見えてきます。その対応策として、生活費の支援、家事支援、介護支援、相談支援それから保健サービス、住宅改修・生活インフラの補修、情報伝達、一般行政サービス支援などが考えられます。このように複数の分野に及ぶ支援が必要不可欠になってくるということになると、各分野がお互いに横断する関係性というものが無いと解決できなかつたり、非効率だったりします。ご自身の力、自分たちの地区だけでは解決できない。そうすると、近隣とのつながりが大変重要ですので、その維持・回復の支援も必要です。

見守りネットワークの構築も、もちろん大事ですね。資料の2ページの大きな2の4段目の「情報」ここが関係してくると思います。これがしっかりしていないと、見守りネットワークは推進できない。

ここが今日の課題の大きなポイントというふうに思います。



それから、ふれあいサロンなどを開設したり、子育てサロンであったりということで、支援者と出会う場所、あるいは当事者同士が自分の持っている課題をお互いに話しあえる場所を作っていくということが非常に大切です。ですから、小地域で活動していく場合は今、各市のこうしたサークル

活動で、当事者の方と協力者の方、支援者の方がお互いを必要として出会う場所というのが大切です。

それから面というのになりますと、これは少々厄介ですけれども、公営住宅、低家賃住宅密集地というのは脆弱で、攻撃を受けやすい条件を持つ人たちが集まって住んでおられる場合が非常に多い。バルネラバルという言葉で言いますが、そうすると、こういう住宅や住宅密集地に住んでいる方は社会的排除の対象となりやすい。無縁社会化という問題ともかかわってきます。それを点、線、面で繋ぎ、支えあうという考え方が非常に重要であると考えます。

## 民生委員を中心に考える

### ～ 事例として ～

最後になりますけれども、資料6をご覧ください。民生委員さんを中心に一つの考え方を提示してみました。民生委員さんのご活動の様子を中心に考えさせていただくと、自ら単独で動く、民生委員さんが複数で協力し合って活動される、あるいは専門職と連携されている、企業や事業者、今回の協定締結した企業や事業者と協力する場合、あるいは自治会と協力する場合、そして協力委員さんと役割分担するというふうに、ちょっと星印の中が欠けてしまっていて申し訳ないのですが、図にあるように協力とか通報、専門職と企業・事業者との情報の共有ということが大事ですね。それから企業・事業者とは連携、あるいは自治会と協力、協力員の皆さんとは役割分担という関係が生まれていく。民生委員といっても、場面・場面、状況あるいは対象になってい

る課題や問題によって連携等の相手や機関を変えていっていい。地域で活動されている皆さんは民生委員さんに限らず、皆さん方が誰とタッグを組むか、誰と連携が必要なのか等考えて活動されていきます。

見守り活動に関して具体的に問題提起をさせていただきます。地域で一人暮らし、子育て世代、あるいはシングルペアレントなどの対象を把握して事業、活動が始まる。当初は見守りという活動が主になります。しかしながら、見守りを継続していく方のさまざまな、今日お話ししてきたような問題が当事者、家族、あるいはその周辺にいろいろあって複雑化する。あるいは、事故が起こるといふようなこともある。そうすると、見守りの見直しというのが行われます。しかしながら、見守り活動というのは様々な事項を想定しているのであって、ここから先は「集う」、すなわちサロンという言葉が先程使いましたが、このサロンという「集う」という発想をしていかないとなかなか問題が解決していかない。そこで新企画として「集う」という場面を作っていくということが必要となっていく、「集う」ということを考えると、先程の「人」、「金」、「場」、「情報」というのが関連して総合力として「集う」という方向に向いていく。こちらはこちらで関連しながら、一方ではサロンという活動が動き始めている。そして最後は何かというと見守りに戻っていくということでもあります。

その結果として、協力者が増えていく、理解者が増える、より関係性が深まる。その時どうしても忘れてはならないのは一番下に書いた専門家や専門職の介入だと思えます。

専門職ってというのは、高齢者でいうと介護保険の要支援1、2、要介護1、2、3、4、5の方については、その方がサービスを一つでも受けておられれば、ケアマネさんついています。それから、そのサービス事業所があるので状況が日常的に確認できます。

ところが問題なのは、認定は受けているがサービスの提供を受けていらない方。また、介護認定は受けていないけれども、独居、老夫婦のみの方々等で介護問題以外の生活上の不安を抱えておられる方の場合は、日常的な状況確認の体制が制度としては整っていません。

民生委員さんが持っておられる要援護者台帳には、この独居高齢者等の情報が入っています。そうするとこの情報は大変重要な情報ですが、民生委員さんと協力員さんだけで日常の状況確認を継続することは甚だ困難です。

そうすると、介護保険の適用までは至っていないが、ちょっと課題のある方、あるいは不安が拭いきれない方に対してどう対応していくか…。見守り活動を行えているか。要援護者情報とその活用方法、あるいはいくつかの情報をうまく整理し、タイム



りに活用できる方法を生み出す必要があります。

皆さま方の活動は、地域での活動というのが主な活躍の場ですが、実はその現場とシステム（情報・サービス・制度など）をつなげていくその方策を、川西は川西のやり方で作っていくことが重要です。そうしていかないと、これからは上手くいかないと思うのです。

今日は「情報」という言葉を協調させていただいて、お話をいたしました。この情報をお互いがすり合わせてくルールと実際の運用を結んでいくこと。僕はこれが社会的にも認知され、責任をもった機関がその役目を果たすのを期待しています。

現に、来期の介護保険事業計画に関する全国の行政担当者会議の資料に、東京大学の研究チームが作った医療と福祉の連携に関する情報共有のシステムについてという新しい文章が出ています。これは参考にしかならないと思いますが、これは医療と介護の連携の情報の共有を深める指針とはなりませんけども、基本となるのは民生委員さんの持つておられる情報、介護福祉事業者が持っている情報、この両方を上手く連結させてこそ地域づくりの具体的な武器になるのではと考えております。ありがとうございました。



©川西市 2008

## 質 疑 応 答

### 人材育成について

質問者： 　　です。よろしくお願ひします。人材の育成のむずかしさというのをお話頂きました。私どもの地区では、福祉委員さんが28名です。民生委員さんの半数が福祉委員になっております。自治会長さん、ボランティアの方も加わりまして福祉委員として活動しております。何年も続けて活動して下さる方もありますが各自治会から2年に一度ですね、一年任期、二年任期ということがあり、慣れたころには交代になってしまいます。二つの自治会、11自治会があるんですが、二つの自治会は高齢化率が40パーセントほどになっており、80才前後の人が頑張っておられます。お元気な方ですので安心しておりますが、申し訳ないと思うくらいにやっています。で、若い方はまだまだ小さい子どもさんがおられまして子育て中で、なかなか部会に出てこられない、参加できないという方もおられますし、男性の方は仕事を持っておられまして残業があったり出張があったりして出てこられないという方もいらっしゃいます。そういうわけで、全員出席して活動するというのはなかなか難しいことになります。何しろ久代地区は、エンゼルハイム、ジーパークという大きな大型マンションがありますけれども、その中でもまだまだ若い方がいらっしゃいますし、部員として委員として出てこられるにはちょっと大変なことです。で、今、上久代の方に新築の住宅が建設中ですけどもその方は新しいおうちに入られるということは、

まずまず若い方だと思いますので福祉部員さんとか、委員さんとかの活動をしてもらうにはまだまだ何年先、何十年先になると思いますね。で、今のままで福祉部員さん、委員さんとして続けてもらうのはもう十何年も続けておられる方もあります。で、一年二年で先程言いましたように一年二年で交代される方もあります。なかなか難しい、福祉部会として活動するのはなかなか難しく思いますね。今月の12日に福祉講座として石嶋クリニックの石嶋先生に老人性認知症と鬱の話について講演をしていただきますけれども、たくさんの方においでいただきたいと思います。で、思いますには、まずボランティアに参加されたり、そういう講座に関心を持たれて福祉のことに協力いただけたらいいなと思うんですね。これからの人材としてつながっていけばいいなと思うんですけども、皆様のご協力をよろしくお願ひします。で、どういう福祉活動、内容にすれば関心を持っていただけるかということが課題だと思うんですけども、今までマンネリ化といいますか、一年間の行事をこなしていくのがやっとというような形で頑張っております。以上です。

司会：先生、人材育成の関係で少しご意見いただければ。

松澤先生：活動の担い手の問題というのは、古くて新しい問題です。その上、近年はその担い手の高齢化がどんどん進んでいて、これからも長くお願いできにくい環境にあると言えます。今日、最初の方でお話しましたように、地域の中は従来のような地域のつながりという関係性を無視をするわけではないけれど、そんなに高い関心を持って協力を実際にも含めてやっていくと

いう層が、残念ながらどんどん少なくなっているというのがあるかと思いません。解決方法というのは、僕も見出せていないのですけれど、はっきりしているのは、やっぱり地域の様子というのをその地域の皆さん方がどのように捉えておられるのか。例えば、今の久代の場合であれば、大規模マンション、新しい新築住宅、新しく流入してくる人たちの階層とか年齢層とかというものをですね、その中で我々は今の久代が抱えている地域の問題をその人たちにも協力してもらって解決していきたい。

そういう思いが、もちろんおありなわけですし、それが

目標ではあるかもしれないけれども、地域で何か自分たちにかかわりのあることや、関心のある事が行事であったり、サロンであったりとか、あるいはさまざまな活動が行われていて、そこに顔を出す機会が持てるかどうかですごく大きいですね。そうすると今日の私の話からいうと、子育てサロンのような世代間が交流できるようなプログラムというものを作っていかないと、なかなか理解していただけない。協力者が生まれにくいという可能性はあると思うんですね。また、流入層が賃貸型の住宅が多いのか、分譲型の住宅が多いのかによってもまた違いますね。特に賃貸型の場合は若い世代が入ってこられても一定の子育て期を終えられるとその人たちはまた、別の場所

に移っていく可能性がありだということで、なかなか定着性というのは難しいという問題も出てきます。私はその意味でも、地域診断という言い方が固くなりますけれど、自分たちの今の地域で課題となることはどんなことやるかということを一方で考え、分析しないと、なかなか参加者を募るのは難しいと思います。また、ご自身おっしゃいましたけども認知症の研修会をやられること、これはすごく大事だと思います。

福祉の問題は残念ながら、我が身、あるいは家族の身の上、あるいは近隣にそういう問題があって、それを何とかしたい、



あるいは困っているという悩みがあるというところで初めて気づきがある場合が多いと言えます。「あ、自分も何か協力しないといけないな」と思いを強くするものだと思います。元気で家族幸せに暮らしているところからは、なかなかそういうところへ思いをいたすというのは難しいと思うんですね。

そこで、この地域では認知症の方々に対してこういうことをやっているの、声掛けを是非してほしい。あるいは、何かせんとあかんと思わないで、気軽に声を掛けていただいて、「ちょっとどうかな」と思ったら、連絡ください。こうした雰囲気醸成する。そして、先ほどの情報の話ですね。それぞれの情報が有効につながりあうとこ

ろを作って差し上げないとなかなか協力できない。誰かに声をかけて、そのおばあちゃんが長々とお話をされていくと困る場合もありますよね。ほっておくわけにはいかないけども、かといって自分はこれからあそこに行かないといけないのに、これ以上は？それだったら最初から声かけんとこかってなりますよね。そうじゃなくて次にどこか連絡する先があって、「お願いします」とバトンタッチできれば、もっと気軽に声掛けられる。そうした仕組みも作らないと、これからはなかなか難しいかもしれないなと、今のお話から感じました。

司会：後でご意見があればいただきたいと思います。

## 認知症高齢者の徘徊について

質問者： と申します。よろしく願いいたします。私どもの地区で、今一番問題、気にかかるということとは認知症になられた方の徘徊ということなんです。4月28日に、70才代の女性が、ちょっと散歩に出たような雰囲気だったのですが結局そのまま行方不明でいろいろと心配しておりますが、いまだに見つからない日々を過ごしております。まず、警察、包括センター、それから高齢者施設等にはもうすぐ連絡を入れておりますが、ただ残念なことには、その帰ってこられるという家族の方が地域に連絡されてきたのがとても遅くて、18時間ほど経ってからだったんで、その間の時間のロスがとても残念でならないのです。

で、私どもの地区では、認知症の徘徊SOSというネットワークができておりまして、

それですぐに発信もして、皆、動きましたが、すべてのことにネックになるのは個人情報守秘義務ということがネックになって警察も、川西警察には届けが受け入れられますが、隣の池田、宝塚というところにはその情報が流れないという今の世の中のこの連携というのが何かもう一つわからないということなんです。そのことをどのようにお考えでしょうか。

松澤先生：先程も、今日、特に強調したい点はそこであると申し上げたんですけれども、今私が試みておりますのは、阪神間の某市ですが、その市社協はですね、民生委員さんと協力関係がもちろんありますのでいわゆる民生委員さんが持っておられる要援護者台帳情報というのは、開示はされていませんけども、あります。次、何があるかということ、社協は全部の地域ではないんですけど、見守り活動が始まって、私は見守ってほしいですと登録された方の情報をその地域が持っています。それからひとり暮らしの方が主ですけども、給食サービスの提供者情報もリストになっている。ケアマネ機関を持っているので、要介護の方で社協のケアマネを使っておられる方の情報はある。ヘルプ事業もやっているんで、ヘルプ事業の利用者台帳がある、というふうに大きく分けて5つの台帳が社協にあります。民生委員さんが持っている要援護者台帳を除いても、この4つの情報がリンクしてない。ということになると、ネットワークとかシステムとか言っても、今の事例のように、具体的にその人の役に立つ、あるいはその人の問題をチェックする情報が活動している人たちのところで共有されない限りはその人を支援・救援すること、



サポートすることができないわけです。

プライバシー保護の法律があるので難しいといえ、それまでなんです、その難関をクリアの方法はいくつかあると思います。

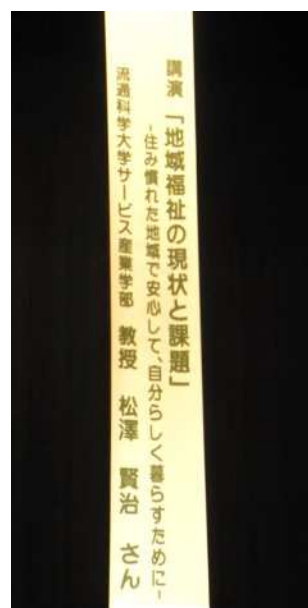
一つ、行政がその気にならないと駄目だと思います。責任を取るといふ気持ちで行政がその情報をどう活かそうかというルールを決めないと駄目。次、本人さんの同意をきちっと得るような段取りをそれぞれの活動が行うこと。これは可能です。それを最終的にどこがとりまとめて持っていて、どういう運用をするのかを明確にする必要もあります。僕は行政がきちっとそれをやらない限りはできないと思います。そうして情報が速やかに開示されるような環境条件、それも24時間体制で、をどう作っていくかというのが実はもう求められている。

今の徘徊のケースに関して警察の話なんですけれども警察も同じでしょ。結局、川西はええけど、池田の警察も、豊中の警察も宝塚もっていうわけでしょ。ましてや川西、宝塚は兵庫県警ですよ。向こうは大阪府警かもしれないんですけど。何が邪魔しているのかわからないんですよ。利用する立場から言うと。

ここもやはり、ルールを決めてお互いがこうしましょうというふうに決めればできることだと、僕は思っています。情報化が進んでいる時代だから、逆にいうとプライバシーがすごく大事だということが表に出されるけれども、本当に困ったり、重大な事故やトラブルが起こった時にそれを解決するときはどうするかというと、やっぱり情報共有が具体的に行われないと無理ですよ。今すぐは解決できなくても、こちらからそういうことまでやらないとうまくいか

ないよということとをどれだけ提起できるか。もし、この方が行方不明のまま、発見できないということであると、それをどう評価するかですよ。先程の活動、評価・点検、計画という、あの矢印を思い出

してもらったらいと思うんですけど、あそこに落として、この問題をきちっと最後の個人情報の問題をクリアしてでもどうしたらいいか、というところまで練り上げないと、僕は難しいんじゃないかなというふうに思っています。ご本人のご無事をお祈りしたいと思います。



## 子どもの支援について

質問者： と申しますよろしくお願ひ申しあげます。高齢者の方々にも力を入れておられますが、十年後、二十年後の将来を見たときに子どもの支援に力を入れて頂きたいと思ひます。今、現状として子ども支援活動の中にはプレイルームを開放したり、子どもグループの活動支援などにさまざまなサポートをされておられますが、その中に参加なさる方は前向きで行ってみたいという方の参加が多く、引きこもりや本当に支援を必要とされている方々は参加なさっておられないのが現状だと思ひます。そういう方々を地域でどのように把握して

引っ張ってあげていいのかということが一つ課題となります。もう一点は、先日、テレビの中で学力の優秀な県ごとの評価が出てまいりました。その中で三世代同居の家庭のお子様の家庭に優秀な方が多く、今、核家族が進む中で、同居というのはとても難しいことではございますが、地域の高齢者の方と子どもたちがふれあう場所を提供してみてもどうかと思います。地区でも年配の方と子どもたちがふれ合う場として、お手玉やこま回しを教えたりという行事を年に一度しております。でも、このような出会いの場を年に一度ではなくさまざまな場所で行っていただけるような場所づくりに力を入れていただけたらと思います。また、時代が進む中で、人と機械という状態の中、人と人とのふれあいがなかなか持てなくなって、子どもの頃の豊かな心が段々と小さくなっている様に思います。できればもっと高齢者の方と子どもたちが触れ合って、豊かな心をはぐくんでいただけるような取り組みをしていただけることを要望いたします。よろしく願い申し上げます。

司会：ご意見みたいなんですけど、子育て支援を深めていくためには地域ではどんなことが大きな課題となって、また、解決する方向性ですけど、よろしく願いします。

松澤先生：いまのは、大変貴重なご意見で、僕からコメントすることはないのではないかなと思うんですけども、今日のお話の中でも、「集う」、サロンというお話を最後の方でさせていただきました。これはかなり意図的にやらないと自然発生的には非常に難しい気がします。ただ、今、子育て中の特に乳児を、乳幼児をお持ちのお母さま方は、

非常に悩みを多く抱えておられて、それを解決したり、あるいはストレス解消するためにお話をされる機会がどんどんどんどん減っていつているんですね。今申されたとおりで、それをわかってお互いに集まるといふ方々は結構自分たちでグループを作ったりサロンを作ったりします。それは意外に携帯からのつながり、ネットでのつながりだったりするんですけど、それが実際に集まり始められるということが多いですね。それがどれだけ地域でたくさん作れるか、ではないかなと思います。



©川西市 2008

## 意見交換

司会：一応実行委員で予定している意見、質問は3点だったんですけども、今のいろんな取組の中で私の地域ではこんなことをやっていて解決できているよということがあれば、例えば徘徊の問題、今いった子育て、人材、何かございませんでしょうか。

### 相談事業を進めるには

質問者：私は と申します。こんな高い場でお話するのは初めてなんですけれども、髭のことで有名な地区福祉委員会の委員長からご指名を受けまして、実行委員をやりなさいと。で、実行委員やりましてね、51人の福祉委員とこの各戸訪問をさせてもらいました。ポスティングいうて、ね。51人の 地区の住所と電話番号わかっていますから、何丁目の何番地のどこであって同じ丁目でありましたらね。ぐるぐる探し回ってやっとわかったという。探すだけでも大変でしたからね。それが一つで、やってみて初めて今までの福祉委員の方がやられたご努力をわかりましたね。それまでわかりませんでした。委員長さんなんか。いろんな会にしょっちゅう出ていらっしゃるわけで、それ聞いてもわかりませんけれども、大変だなということが一つわかった。もう一つね、私を感じたことはね、いろいろ悩み相談というコーナーを設けていらっしゃるわけでございます。サロンとか、喫茶とか。ところが「悩みのある人が来てくれません」と言われました。それ、どうしたらいいやるか。それでこれは私の個人的な見解ですけども、今は、何とか出前何

とかっていうて、やっていますね。餃子欲しいっていうたら餃子持ってきてくれますわね。ラーメン欲しかったらラーメン配達してくれますね。ちょっと考えてみましてね、悩みのある人が電話をかけていくというたら、ほとんど悩みのない人で、そこまで勇気出していける人は。本当に悩みのある人いうたら、ドアを「バシャン」と閉めて隣の人と一回も話したことはない、一日何も話してないという方がいらっしゃって、その方が悩みのある人なわけです。そこへ何とかして出前で出かけていかんとあかんのではないかと思うんです。隣の人がいってもいいし、それでよくお話聞いてましたらね、一杯でもいいからお茶飲むようなところがあつたらいいと。「そんなところあつたら行くで」と言われたことをお聞きしましてね。その辺のところは全国的にどうしていらっしゃるのか、ちょっとお話をお聞きできませんでしょうか。

松澤先生：具体的なお話を途中退席したためにお聞きできず、大変申し訳ありません。今悩み相談は、「誰のところに行ったらいいのかわからん」ということですけど、来談側はどう相談したらいいのかわからないという人も結構多いのが現状ではないかなと思います。自分の抱えている悩みや問題、今日もお話しましたように、多問題化していたり、複数の問題を抱えておられて、本当に生活全体に困窮しておられたり、悩みがあって、それを誰にどう吐露するのか、吐露していいものかどうかと。結局、役所へ最後に相談に行かれる時はもう非常に厳しい状態になられてからという場合が想像されます。

地域の皆さん方の活動は、話し相手や信

頼関係からのスタートです。しかし、相手らすれば、それが具体的な支援という結果につながるとか、何か返ってくるというのがルール化されたり見えたりしないと、相手は信用もしてくれないし、あそこに行こうという気持ちにもならないというのはあるかもしれないですね。

もっといろいろ課題がたくさんあるのでこのことだけを言ってしまうといけないかもしれないですが、そういうところがちょっと難かしいとこだらうと思います。ましてや訪問して戸を叩く、民生委員さんもよくおやりになる事だと思いますが、なかなか対応してくれなかったり、マンションに至っては、ボタンを押して相手が扉を開けてくれないとマンションにも入れない。そんな環境を大きく変えようとするとどんな手段があるか、やはり一度相手に出てきてもらって顔を合わせて挨拶する。そうしないと始まっていかないわけです。そこで、サロンなどの集う場所での機会を増やして参加の機会を得ると、その結果顔見知りとなり扉が開くようになる。この仕掛け作りが、地域活動としては大事なかもしれないという気がします。

司会：相談窓口のご意見があったのでここで地区福祉委員会、14地区の福祉委員さんいらっしゃるんですけども、相談窓口でこのような工夫しているという点がありましたら、どなたかいらっしゃいませんか。

男性： 　　です。私のところも、毎週第1水曜日ですか、地域の人で集めてサロン、そういったものをやっておるんですけども、そのときに悩み事、心配事ね、ありませんか、そういう形で行政から来てもらってち

ゃんと窓口を設けているんですけども、先程、言われましたように、なかなか相談に来ない。私とこは、本部というんですか、私どもの地区には、こころの相談窓口があります。そこへ行くんだったら、そちらの方へ行く人が多分あるんじゃないかな。わざわざ私どものやっている水曜日のサロンの方には来ていただけないというのが現状です。先程ね、どういう関係があれば来てくれるのかなというお話がありましたけれども、今のところちょっとわかりません。

司会：今、相談窓口の「こころ」のお話がありましたけども、当初、「こころ」を開いた時には結構ご相談あったんですね。

さん。その辺はどうなっているんですか。

女性：失礼します。えっと、開所当初はやはり、皆さん結構相談に予約をお取りして、専門の先生がいらっしゃるの、そちらの方にいろいろ法律的なこととか具体的に相談させていただいておりましたが、ここ数年、相談という相談はあまりその、予約を取ってまでご相談するという内容のことが減ってきております。それと同時に私もちょっと、市の方の相談員を去年までしておりましたが、地域からそちらの方にご相談にみえているっていう方向になってきております。やっぱり地域の中での相談っていろいろんな内容にもよると思いますけど、やっぱり話しにくいのかなって。というのは、社協であったり、市の方の相談所であったりというふうに、そちらの方に行かれているのが現状になっております。でして、ご相談があっても私たちはとりあえず、行政とかそういう専門のところにつなぐ、お教えするということができませんので、今のところは何とか安泰かなと思っ

ておりますけど、何ともお答えの方はちょっといたしかねます。

## 行政の責任

司会：何かその関係でも、何でもいいですけど、ありませんか。なければちょっと私の方で申し訳ないんですけども、先ほどの徘徊の方、まだ行方知れずということで警察間とか行政間の連携を何とかせいということなんでしょうかね。

松澤先生：これは複合的な要素なので、「何ができれば解決する」ということではないんですね。相手がどういう状況におられるかわからないわけですから、それをこのルートで行けばたどれるだろうといってもな



かなか難しい。そうすると可能性のある事をいくつも予想を立ててそれに対する対応を探っていくということになりますよね。この問題ならば地域包括に頼めるけれど、この問題は地域包括ではなかなか難しいという場合もあるでしょう。その場合は、もう根っこへ戻るしかない、という意味で行政や警察等の専門機関の役割が重要ということを申し上げているんですね。最後は、そこがぐっと握って下さって、関係するところから情報を集めないと、なかなか解決に至りにくいのではないかという意味です。ですから行政が責任もてというのは、何も

かも行政がやれ、警察がやれという意味ではなくて情報を集めてそこがコントロールするという考え方が必要だというのが私の主張です。

司会：他の方で何かございませんか。高齢者の取り組みで、今、ちょっと新しい取り組みをしていただいているということです。ちょっと簡単にでもいいですからご説明していただけないでしょうか。

## 高齢者支援

男性： ですね。私も2年前から福祉をやらせてもらっているんですけど、本当に何をね、とりわけ高齢者対策について何をやっていいかっていうことなんですけど。二つあって一つは見守りをどうしようか、もう一つは高齢者支援なんですね。ちょっとまあ、お聞きしたいのは高齢者支援というのでね、いろいろ東京の足立区だとか、寝屋川だとかいうのをテレビなんかで見ると、有償で、ボランティアで、ボランティアだけれども有償でやっているんですね。ところが、なかなかそれが長続きしない。私どもの地区以外でも、この川西でもやってらっしゃると思うんですけど、結局継続性が難しいんですね。やっている人が年を取ってくる。やめたら次の人が来ない。それから、金が絡むということなんで支援活動について、成功要因とは何かということをお教えいただきたいのと、もう一つは人材発掘だとかいろいろ言うんだけど、結局、その会社を辞めて家にいらしてもね、「関心がないわ」と。ただ「体が悪いわ」というのを除いて、意識的に奉仕の精神で、じゃあやってやるという人が大体何割ぐらい、

先生の今までのご経験でカウントしていらっしゃるのかどうか。僕は、1割か2割くらいじゃないかと。そういう1割か2割のところに、焦点を当てて発掘していくというくらいで考えないとなかなか発掘できないのかなと思うんですけど。人材発掘の確率というか潜在率というのがどれくらいあるのか。この2点をお聞きしたいと思いません。



### 有償型の非営利活動

松澤先生：有償型の非営利活動は、メンバーや世代の交代などが難しかったり、活動の継続性や持続性に課題がある場合が結構あると思います。ボランティアな市民活動の宿命だと思います。それを防ぐためにはその組織が次の世代に渡っていけるような支援の方法を考えないといけない。そこはなかなか難しいのでね。なぜかという、自分たちの考え方をお持ちで、賛同者以外がなかなか入りにくいというようなこともあって。そうした活動で、自分たちでイズムを持っておられる場合には、その活動が、とくにリーダーの交代等によって衰退するというのはよくある例だなあというふうに感想を述べる程度でお許しいただきたいと思えます。

## ボランティア活動と

### 団塊の世代

松澤先生：それから地域で活動しようとする人たちのパーセンテージですか。ボランティア活動をやりたいという人は6割くらいおるといふうに言われています。そのうち実動確率は5パーセントというのが今の実状です。ただし、これは全人口でいっていますから、そうすると少し煮詰めていくと、2割というのは当たらずとも遠からずかな？と思うんですね。あとは参加意欲をどう高めてもらうかというのはすごく難しいですね。団塊世代がリタイアするとボランティア活動や市民活動をする人が増えるか、増えないですね。なぜかわかります？今日、言いましたでしょ。多様化していませんもん。

僕も、もうすぐリタイアですけども、多くの場合は、「今年でやめるわ」「あ、そうなん、次どうするの」次どうするのって仕事することが前提なんです。「もうええやろう、年金も入るし」「いや、あんた、あかん。死ぬまで働いて」て、言われていますね。働くというのは稼いで来いという意味なのか、社会活動にも参加せんと、「あんた、家におってもしょうがないやろう」という意味なのかよくわからないんですけども。何かそういう関係で価値観が多様化していますので、団塊一括りにならないんですよ。趣味をこれまで我慢していたのをやろうとしている人とかですね。最近、車でもカメラでも復刻版が仰山、出ているでしょ。我々がターゲットですよ。だから自分の趣味とか若い時にやりたかったけどできなかった

ことをやろうということで、その世代が動いてますんで。その世代が全部こっちへ来るなんて考えるのはやっぱりちょっと無理があると思いますね。ところが一方では、会社勤めをしていたり、組織の中にいたりして役割であったものが、役割がなくなってくということに対して、最初は気付かないのだけれども、地域デビューをして役割を持たないと自分の生きがいがないと思う世代でもあるんで、そこは仕掛け次第だと僕は思いますよ。うちの嫁はんみたいに、死ぬまで働けと、奥様方が全員言ってくさって、お金のことはいいと。あんたのやりたいことを週に3日は絶対外に出て行ってやると。でないと家におられても困るねん、くらいですね、そういうことなんです。だから元々価値観の多様化の中で、みんなこっちに来るやろうなんていうのはもう幻想にすぎない。やっぱり仕掛け作らんと絶対できないということなんです。2割というのはいい数字だと思いますよ。そういう点では。ありがとうございました。

## 高齢者徘徊の事例

質問者： と申します。私どもの地区は先程、徘徊の件でお話させていただきました。実はその時のことなんです。徘徊された方は一度、徘徊の前歴のある方でした。で、息子さんが地域包括さんの方に、奥さんの通いとかを手続きを取ってらっしゃったんですが、ご主人が、その時は入院中だったもので、「自分のいないときに勝手なことをして」ということで、息子さんにすぐ反対されて。地域包括さんに行くこと自体を取りやめられたという現状だったんで

す。前回、徘徊されたときはご自分でお名前とかご住所が言えたから、伊丹の方まで歩いて行ってらっしゃったんですけど、伊丹の方が「助けてください」と言われたから連れてこられたような現状だったようです。で、とにかく、そんなことで、ご主人と息子さんの仲がちょっと悪くなったということもありまして、息子さんが電話をかけても、お父様は、ほっといてくれというような現状だったようです。

地域としては、まだそんなに進んでらっしゃるといこともあんまり知らなかったんですけど、お父さんの方も数日前から、奥さんが散歩されていたんですけど、ちゃんと帰ってきてらっしゃるから、心配なかったようなんです。

そんなような状況のところ、徘徊されたということなんですけど、徘徊されたときは警察の方は動いてらっしゃったようですけど。地域として、連絡が入りましたのは、18時間後です。それからすぐに民生委員さんの担当者の方が、認知症サポーターの担当者が、すぐにご家族の方に、地域に搜索をまわしていかってということで連絡をとってもらって了解を得まして、そ



れから地域に流したということです。本当に5地区も協力してもらったり、それから、

もちろん中央包括さん、地域包括さん、皆さんに協力してもらいました。この場を借りてとにかく皆さんにお礼を言いたいです。ただ、警察とのあれがちょっとできなかったもんで、後悔しているところもあるんですけど。その後なんですけど、今度はご主人の方ですね、ご主人がやっぱり奥さんのことばかりで頭一杯です。この間も、奥さんが帰ってこられたということ、市の方に言ってこられたとか。それから警察にも110番されて。能勢口まで出ていたんだけど、能勢口で行方不明になったということで届けがあったりして。自治会長さんの方に警察の方から行かれたりして、そんなことがありました。で、今度はご主人の方に対するケアというのを地域で考えていきたいなと思って。今度、ケア会議を持つような予定をしておりますが、現在はそんなような状態です。本当にお世話になりました皆さまにお礼を申し上げます。ありがとうございます。

今後の搜索は、私たちちょっとね、本当に難しいと思います。皆さん顔をご存知の方は気を付けて頂けると思いますが、本当に警察の搜索を待つしかないなという思いを持っております。

ありがとうございます。

## 自ら地域とのつながりを

男性：川西の一番北、 地区に住んでいます。で、今、先生のお話を聞いていただいて、私も団塊の世代ということでリタイヤして2年目ということで、やっぱり一番思いますのはね、地域としてはやっぱり、ほとんどが住宅都市ということで、大阪の方

に働きに行っている方が多いということで、同世代の人に聞きましても、せっかく何十年も働いて、神経すり減らして働いていたということで、リタイヤした後までいろんなことはしたくないと、自由気ままにやりたいということで、今の社会というのはお金さえ持っておれば自分一人でも何とか生きていける社会ですので、一番問題なのはその方々の体が弱ってきて、自分でできなくなったとき。私自身もそうですけれど会社を辞めてしまいますと、つながりがあるところがぶつと切れて、あとのつながりがなくなります。地域の役をやっていまして、その辺のつながり残っていますけど、本当に会社勤めをされていて辞めた方というのは、その時点で今までのつながりが会社しかないという方も結構おられますので、その後で何もなくなってしまふ。自分ひとりで生きていけると。

で、その方が例えば、病気されたり、けがされたり、なんかあったときに、全然他とのつながりを持ってはりませんので、そこで本当に一人暮らしになってしまつて、誰の支援も受けられなくなって困つて、誰もつながりがないというような方がおられます。で、自分自身も地域に帰った時に、全く仕事一途にやっていたから、地域とのつながりが全くなかったと。昼間、家にいた時にその辺を歩いても誰も知らん人ばかりと。で、妻の方からあれはどこそこの人、あれはどこそこの人、教えてもらって仕方なくやってきたことは、誰でもいいから会った人とは挨拶をする、「こんにちは」、「おはようございます」ということで、それを1年2年続いた中でつながりがある程度できてきたと。「どこそこのおっちゃん



や」ということが分かってきて、子どもでも、小学生、中学生が声をかけてくれるという形の中でやっと地域に溶け込んできたかなという思いを自分で持っているんですけども、ただ、やっぱり私自身が地域の中で、私の住んでいる地域というのは例えば、春の祭とか、夏の子どもたちを集めての祭とか、クリスマスのイルミネーションやったりとか。そういう形で仕掛けをある程度やって、何とか地域の方々を出てきてもらって、どこそこの人という形をお互いに分かれば、誰それさんが見ないとなってくると、「あそこのおじいちゃん、どうしているのかな」という形でつながりができてるのかなと思うんですけども。やっぱりその、何か楽しみがないと、人はなかなか出てこないということで、もっと具体的に言えば、自分にとってプラスがないとなかなか動いてくれないというのが実際よくわかってきまして、その辺で何か楽しみを作っていこうかなという形で今、動いていますけど、その辺もまた考えて頂けたらと思います。

司会：今日は意見交換、質疑ということですので、先生の方でまとめて頂くというのは難しいと思いますが、最後に先生からご意見いただきたいと思います。よろしくお願ひします。

松澤先生：最初から長い時間お付き合いいただけてありがとうございました。間で1時間少し私の話を聞いていただいたことに感謝いたします。川西市というところは、今、最後のご発言にもありましたように、大阪への通勤圏の住宅開発で大きくなってこられた街というイメージがございます。もちろん、土着的な地域のつながりという

のを持っていた地域、この両面がある地域なんだなということですけども。また、川西市は非常に地域の活動に関して熱心な地域というイメージが昔からあります。ここまでお話を聞いていて先程のまだ不明の方で見つかっておられない徘徊のお年寄りの問題が出ましたけど、他の地域だったら話題にもならない可能性があります。あるいは18時間後とおっしゃいましたけれども、僕は逆に考えれば、地域の皆さんのところにその情報が18時間で届いた。僕はそんなに遅くはないし、早いくらいだと思います。ただ、そのことで解決できていないところは残念な結果になっていますが、これをもっともっとこれから続けて頂くこと、そのことをここにお集まりの皆さんが、広げていっていただくと、安心できるなというのが一つです。あと、小中学生を持っている親御さん、これは手ごわいですね。どうやってこの人たちに出てきてもらうか。震災の時の経験で申しますと、小学生、中学生のお子さんをお持ちのお父さん、お母さんのつながりは子どもさんの少年野球、サッカー少年団等々で。すなわち息子や娘がやっていることでつながったお父さん、お母さんの絆結構強いですよ。こちらは少し見方を変えるとまだまだチャンスありかなという気がいたします。まとめにも何もありませんけれども、最後の話にさせて頂きます。お疲れ様でございました。

「住みたいかわにし」  
みんなでつくろう！！

